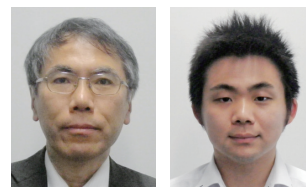


クルーズ船・クルーズ来訪客からみた港の空間形成上の留意点について

(研究期間：平成29年度～)



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司 研究員 藤田 淳

(キーワード) クルーズ、みなとまちづくり、港湾景観

1. はじめに

港湾における中長期政策「PORT2030」(H30.7)において「クルーズ」「港の空間形成」が掲げられたところであり、今後とも、昨今のクルーズ船、クルーズ来訪客増大に伴い、魅力的な港の空間形成を図ることがますます重要となってくると考えられる。

2. クルーズ船・クルーズ来訪客の観点からの景観体験とそれに対応するみなとまちの空間形成の留意点

本研究では、既存文献、クルーズ会社のHP、雑誌港湾等をもとに先進事例の分析とともに、クルーズ体験記事の分析を行った。それにより、クルーズ船・クルーズ来訪客の景観体験を整理し、それに対応した港町の空間形成上の留意点について考察した。以上を整理したものを図-1に示す。「湾外・湾内→港内のアプローチ景観」という景観体験に対

応する「あたかも船を出迎えているような海や船を意識したまちのづくり」の例として、海上からの景観に配慮して整備された橋梁、建築物の例を図-2に示す。

3. 今後の取り組みの進め方

今後、クルーズ船、クルーズ来訪客増大が海・港側からみた「みなとまちづくり」を考える切っ掛けになり各地の港町における景観・空間の総点検、資源の再発掘・活性化に繋がればよいと考えている。



図-2 海上からの景観に配慮した事例（青森港）

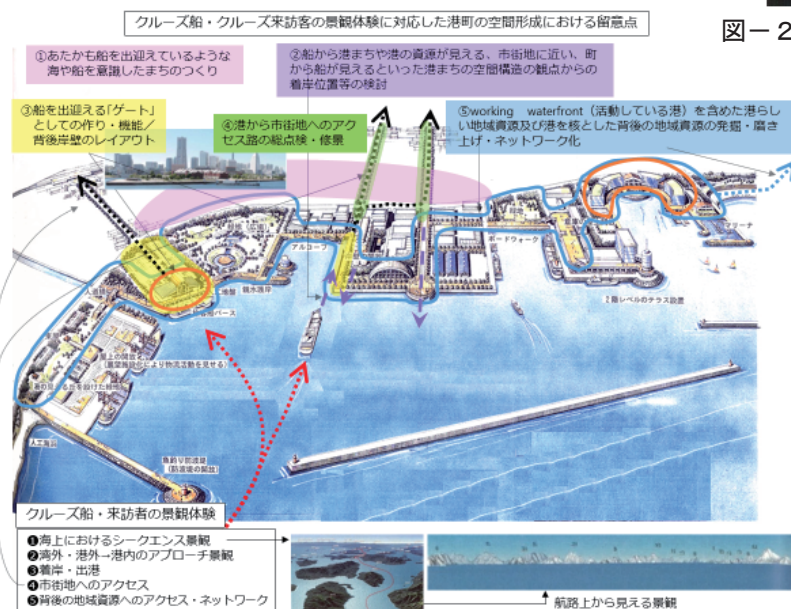


図-1 クルーズ来訪客の景観体験に対応した港町の空間形成における留意点

1) 上島顕司：クルーズ船からみた魅力的な港の空間形成のあり方について、第31回日本沿岸域学会研究討論会, 2018

4. 地域創生・暮らしやすさの向上